

『モノづくり企業の未来ビジョン』



トップが語る

北芝電機

取締役社長
安藤 秀泰氏

北芝電機（福島市）は、東芝グループの重電部門の一翼を担う。業界の先駆けとなる「菜種油変圧器」をはじめ、高効率誘導炉や水車発電機といった環境調和製品で存在感を發揮している。基本

方針として、設備・開発・人材への「三つの投資」を掲げ、持続的な成長を目指す。安藤秀泰社長に展望などを聞いた。

秀泰社長に展望などを聞いた。

「菜種油変圧器」を
はじめ、高効率誘導炉や水車発電機といった環境調和製品で存在感を發揮している。基本

倍にする計画ですね。

高度経済成長期に工業地帯や電力系統で整備された変圧器が更新期を迎えているほか、データセンターや再生エネルギーの蓄電システム向けなどの新規需要もあり、受注が積み上がっている。容量10MVA時はマイナーだった

2009年に菜種油型を市場投入した。当時、19年に鉱油型から軸足を移して専用工場とし、26年1月時点で累計700台超を納入した。産業界の環境意

外へ移設して製造エリアを拡充したり、クレインのつり上げ能力を向上させたりするなど、生産体制の強化を進め、来年度までに同150台体制を整える。

―菜種油型で環境調和や安全性を訴求し、差別化してきたことが奏功している。

―変圧器の需要増が、コイル巻線機を増設したり、屋内に設置していた油タンクを屋

外へ移設して製造エリアを拡充したり、クレインのつり上げ能力を向上させたりするなど、生産体制の強化を進め、来年度までに同150台体制を整える。

設備・開発・人材 “三つの投資”

識の高まりのほか、東も環境調和につながる製品ですね。

北電力の購入仕様書に「植物油変圧器」が盛り込まれたことも追い風になった。欧米では

植物油型が市場シェア20―30%を占めるのに

対し、日本は同5%程度に過ぎないので、開拓の余地は大きい。

―製造業向け次世代の高効率誘導炉システム「スマートメルタ」

約200万台削減を見

込める。また従来、コイル交換の施工リードタイムは約1週間だっ

たが、「クイックチェン

ジ炉」を採用して約3日間に短縮した。

本構造は変わらないた

め、マイナーチェンジ

の置き換え需要を受

け、引き合いが活発

化している。

―持続的に成長する

動シミュレーション解

析により、冷却用フィ

ンの配置、タンク内部

欠かせません。

―革新的なモノづく

で油の循環などを最適化する「攻めの設計」にアプローチしている。また、植物油は鉱油に比べて電氣的な基礎物性に関するデータが少ないため、宮崎

大学とその解明に向けて共同研究している。

―「三つの投資」に

若手には「まず自社製

品に興味を持ち、好き

になってほしい」と伝

えている。製品に興味

を持てば探究心が湧

いており、決して超え

ようございました。

―中長期の数値目標

は売上高300億円

です。

―「三つの投資」に

若手には「まず自社製

品に興味を持ち、好き

になってほしい」と伝

えている。製品に興味

を持てば探究心が湧

いており、決して超え

「菜種油変圧器」生産を增强



環境調和型の菜種油変圧器



年産150台体制を整える（本社工場）



北芝電機株式会社

URL: <https://www.kitashiba.co.jp/>